



## 個人情報…

～毎日が巡礼～

六十五歳で職を辞して六年、巡礼記を書かせてもらうお陰で各地を旅する。

実は今回、二つの旅を取り止めた。三月末からの台湾四泊五日の旅と五月の中国江南地方六泊七日の旅である。

両方とも同行添乗員なし、現地ガイドによる格安ツアー。何しろ中国の旅に至っては六泊七日全食付きで二万九千八百円。娘たちから「そんな格安ツアーは止めて飛行機もエコノミーではなくビジネスにして楽な旅を」と叱られる。

今回の中止の大義は東日本大震災である。

大勢の方が亡くなり、何十万という人が今も避難生活を強いられているのに、自分たちは旅という気持ちになれない。

「少しでも多く義援金を」は建て前で、最近、観光ツアーには「どうしても行きたい」という気持ちにならなかった。

何か表面的な観光だけで人との交わりがない。今までの旅の中で思い出深いのは、観光ツアーではなく、アジアの貧しい人々を訪れた旅である。そこには人と人との交わりがあり、気楽な旅ではないが、思い出深い旅が多い。

一方、旅行業者が公募する観光ツアーは安く、世界遺産や名所旧跡を旅するが、現地の人との交流はない。

さらに一般観光ツアーが物足りない理由は個人情報保護によって起こった最近の傾向にある。

「旅は道連れ、世は情け」ではないが、旅

の魅力は目的地の見物が第一とはいえ、一緒に旅する人との交流が旅を豊かなものにしてくれる。

とこころ

が、最近

は個人情報保護という立場から、自己紹介も団体名簿の配布もない。もともと日本人は余り社交的ではないので、初対面の参加者と親しくならない。

例えばトルコの十五日という長い旅では、一台のバスで二十数人が行動を共にする共同体。食事だけでも四十回以上、一緒に食べるとはいえ、もっと楽しい雰囲気になるように配慮するのが添乗員の大切な仕事というのが、私の持論である。

しかし最近では個人情報保護ということで、何となく冷たい感じがす



貧しいフィリピンの友からプレゼントされた我が家の宝物

る。

これは観光ツアーに限ったことではない。個人情報を使用する人が多い世知辛い現代の世相を反映し、いろんな面で人との関係が希薄になっている。

トルコの旅では私と同じ考えの山口市出身の男性と親しくなりました。写真を送るために住所を交換し、それが縁で今も夫婦で交流している。

冒頭の中国江南の旅、その友人は同じコースを四月初旬に行きました。帰国すると土産を持ってわざわざ我が家に来られ「奥様には強行軍で不向き」との助

言も旅を中止した理由の一つだ。

フィリピンのスラムにホームステイした時、バラックのような飾りもない部屋にあった木製の大きなフォークとスプーン。「ワンダブル」と言ったら、帰る際、それがカバンの中に入れてあった。

人との交わりこそが人生を豊かにしてくれる。隣人に無関心、無関係、個人情報保護がその傾向を助長しているように思えるのは残念なことである。

◇ 「愛の反対は憎しみではなく無関心です」(マザー・テレサ)

トルコの旅で友となった人の奥様は「さげもん」じくりの名手、お陰で我が家にもたくさんある

